

# 読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

東日本大震災の発生から10年。岡山県の企業が、復興の歩みを記録した「杭」を被災地に設置しています。記事を読み、質問に答えましょう。

## 復興語る情報杭

リプロ、被災地に50本



震災後、がれきが残る被災地に杭を設置するリプロの社員。2011年夏、岩手県大船渡市

東日本大震災からの災地見学の道しるべとして復興の歩みを記録しよて使われるなど、今も「小うと、プラスチック再生加工品」となっている生加工品製造のリプロの。

(岡山市南区中畦)が内蔵したICタグを被災地に設置した「復興情報杭」。スマートフォンをかざすと、設つて変化する景色な置地点の過去の映像を、住民らがこれまで撮ることができる。被影してきた写真や動画な



どがスマホの画面に表示される。IC保護用のゴムは自動車部品製造の丸五ゴム工業(倉敷市上富井)が提供した。

震災を記録する社会実験として、東京大や、芸術活動を通じた被災地の情報発信に取り組み、岩手県大船渡市の企業「みんなのしるし」などと共同で

### スマホで映像「風化防ぐ一助に」

岡田謙吾社長は「杭をきっかけに被災地と交流を深めてきた。復興でまちの姿が変わり、住民の世代交代が進んでも、震災の風化を防ぐ一助として、これからも保全に努めたい」と話している。

(伊東圭一)

他の2市にも個人宅の庭や公民館、公園などに杭が残り、リプロは各地を定期的に訪れて無償でメンテナンスを続けている。

「かさ上げや区画整理で風景が一変した場所も多い。杭に記された映像を見ることで変化を実感してもらえら」とする。

が、大船渡市では住民らでつくる「大船渡津波伝承館」が管理。津波からの避難場所になった神社などに9本があり、被災地を巡るコースのチェックポイントとなっている。同館は「かさ上げや区画整理で風景が一変した場所も多い。杭に記された映像を見ることで変化を実感してもらえら」とする。

2011年夏から設置を開始。同市、同県陸前高田市、宮城県気仙沼市に計約50本を立てた。

復旧工事に伴い移設や撤去された杭もある。

現在も被災地に立つ復興情報杭。左は津波が到達したことを示す石碑。岩手県大船渡市

12日付、山陽新聞地方経済面

Q1 ★★★★★

プラスチック再生加工品を製造する企業・リプロ(岡山市)が、東日本大震災の被災地に設置した「復興情報杭」は、どのような特徴がある杭ですか。第1、2段落から読み取りましょう。

Q2 ★★★★★

震災から10年たち、復興情報杭はどのように使われていますか。第4段落を参考に答えましょう。

Q3 ★★★★★

この企業は、どのような思いを込めて杭を設置し、メンテナンスを続けていますか。見出しや第6段落を読み、考えましょう。

★の数は問題の難易度を表しています。



東日本大震災のこと  
ずっと忘れないよ